

シニア・ストラテジスト  
山本 雅文

マネックス証券株式会社  
www.monex.co.jp

## RBA は豪ドル押し下げの好機を逃すか？

### <ポイント>

- ◆昨日は、週末 5 日のギリシャ国民投票結果を受けて東京時間早朝はリスク回避傾向が全般的に強まり、対主要通貨でドルと円が上昇、ドル/円は米中長期債利回り低下期待からくるドル安の方が勝り下落した。もっとも、欧米時間にかけては、ギリシャ財務相辞任を受けて歩み寄りへの期待感が高まったこともあって全般的に反発傾向となり、ギリシャの EU 離脱懸念の高まりでも市場は比較的平静を保った形となった。
- ◆この間、原油価格の下落が大きかったことから、産油国通貨であるカナダドルが大幅安となった。
- ◆本日は、EU 首脳会合でギリシャ国民投票結果に対してどのような対応を取るのかが注目される。ギリシャとの交渉が打ち切れればギリシャの経済的混迷の深まりと他国への悪影響、そしてユーロ圏・EU 離脱の可能性の高まりが懸念され再びユーロ安、円高圧力が強まる可能性がある。
- ◆他方、EU 側が譲歩しよりゆるい条件で追加支援合意となれば、短期的には混乱回避でユーロ下支え、円買い一服となろうが、長期的にはユーロ圏の財政規律悪化やドイツのユーロ圏・EU 離れ(Dexit)の可能性も意識されユーロ安圧力となる面もあり、ユーロ大幅上昇は期待しにくい。
- ◆豪ドルは、鉄鉱石価格下落もあって下落基調が強まる中、RBA 理事会で予想外の利下げが行われるかが注目される。

### 昨日までの世界:ギリシャ国民投票で急落後、一時全戻しも

ドル/円は、週末 5 日のギリシャ国民投票結果を受けて東京時間早朝はリスク回避傾向が全般的に強まり、対主要通貨でドルと円が上昇、ドル/円は米中長期債利回り低下期待からくるドル安の方が勝り一時 121.70 円へ下落した。もっとも、欧米時間にかけては、ギリシャ政府の強硬な交渉姿勢の代名詞的存在だった Varoufakis 財務相が辞任を表明し、ギリシャ政府が譲歩姿勢に向かっていると市場の期待に繋がったこともあって、米 2 年債利回りが小幅に持ち直しとなる中で買い戻し基調となり、一時 122.93 円と週明けの下落を全て回復する局面も見られた。但し、米株価の軟調を眺め、引けにかけては 122 円台半ばで上値重く推移している。

この間、米経済指標では 6 月 ISM 非製造業景況指数が 56.0 と前月から改善したものの市場予想を小幅に下回る結果となったが、ギリシャ問題が最大の焦点となる中で、市場の反応は殆どなかった。

ユーロ/ドルも同様に、週明けに 1.11 ドル丁度近辺から一時 1.0970 ドルへ下落した後、欧米時間にかけて 1.11 ドル手前まで持ち直すなど下落は限定的となった。週明けの下落も先週初にギリシャ政府が国民投票実施を決めた後の安値である 1.0955 ドルを下回っておらず、案外底堅いとみることもできる。ユーロ/円も、週明けに 136 円台半ばから 133.70 円へ急落した後、一時 136 円台を回復する局面も見

られたが、引けにかけては 135 円台半ばへ小幅軟化している。

豪ドル/米ドルも、週明けに 0.75 ドル台から一時 0.7452 ドルと年初来安値を更新した後、0.75 ドル丁度近辺へ小反発している。

豪ドル/円は、週明けに 92 円台半ばから一時 90.77 円へ下落した後、NY 時間にかけて 92 円台半ばへ全戻した。引けにかけては 92 円丁度近辺へ小幅軟化している。

**きょうの高慢な偏見：RBA は豪ドル押し下げの好機を逃すか？**

[今週の見通しはこちら\(7月3日付FX戦略ウィークリー\)](#)

[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

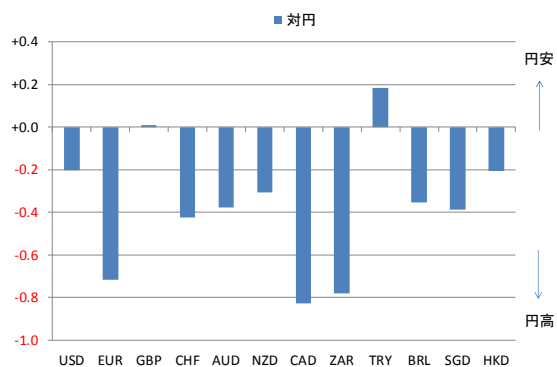
ドル/円は、EU 首脳会合でギリシャ国民投票結果に対してどのような対応を取るのかが注目される。ギリシャとの交渉が打ち切れればギリシャの経済的混迷の深まりと他国への悪影響、そしてユーロ圏・EU 離脱の可能性の高まりが懸念され、再び米中長期債利回りの低下とドル/円の下落圧力となる可能性がある。この点、ギリシャが新たな提案を行うこととなっているため、新提案内容とそれに対する EU 側の評価が焦点となる。他方、EU 側が譲歩しよりゆるい条件で追加支援合意となれば、短期的には更なる混乱の回避でドル/円の下支えとなりそうだ。

なお、市場の焦点はギリシャ問題だが、米国では 5 月貿易収支が発表予定で、-427.5 億ドルと赤字額が拡大する予想となっている。赤字拡大は需給面で米ドル売り要因であるだけでなく、GDP 成長率へのマイナス寄与が拡大し、利上げ開始期待を後退させる面もあり、ドル安要因であるため注目される。

ユーロ/ドルも、ギリシャとの交渉が打ち切れればギリシャの経済的混迷の深まりと他国への悪影響、そしてユーロ圏・EU 離脱の可能性の高まりが懸念され、ユーロ安圧力となりそうだ。他方、EU 側が譲歩しよりゆるい条件で追加支援合意となれば、短期的には混乱回避でユーロの下支えとなろうが、長期的にはユーロ圏の財政規律悪化やドイツのユーロ圏・EU 離れ(Dexit)の可能性も意識され、ユーロ安圧力となる面もあり、ユーロ大幅上昇は期待しにくい。いずれにせよ、ユーロの反応は限定的なものに留まりそうだ。

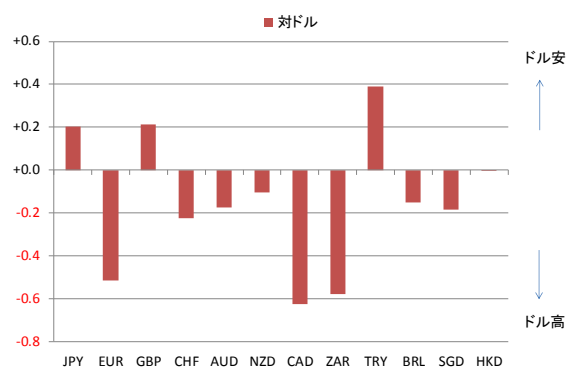
豪ドル/米ドルも鉄鉱石価格が再び軟調となっており、豪ドル/米ドル相場も 0.75 ドルを割り込んで目先サポート水準がない中で、EU の対応次第では更なる売り圧力を受けそうだ。これに加えて、RBA がファンダメンタルズ悪化を背景に、殆ど織り込まれていない利下げを行うと、下落が加速する可能性がある。

主要通貨の対円相場(前日比%)



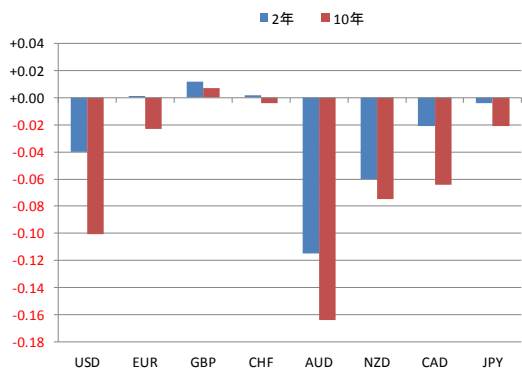
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



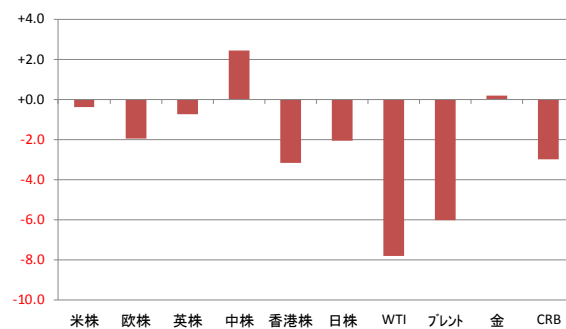
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

**利益相反に関する開示事項**

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会